

くらし守って全力!!

負担増やめよ! ムダづかいなくせ!

岐阜市議会・6月定例会本会議

中川ゆう子市議の代表質問 【下】



中川ゆう子市議の代表質問の後半をお伝えします。

駐車場建設ではムダづかい 図書充実あと回しでは本末転倒

中川・代表質問では、岐大医学部跡
地利用計画で市立中央図書館（仮称）
建設がはかられていることのかかわ
り、市の図書館のありようを取り
上げました。先号でお知らせしたよ
うに、中央図書館建設では10億円超の
巨費を投じて本来計画にない立体駐車
場建設を計画。これを批判し、既存施
設の活用でムダ遣いは防げると追及し
た中川質問は、そのムダの一方で市民
に必要な図書館機能の充実をあと回し
するのは本末転倒だと指摘。「知と文
化を育む豊かな市政のあり方」を提案
しました。

知の自由と喜びに保障を

中川質問：図書館建設とは、ただ豪
華な建物をつくることだけではなく住
民一人ひとりの知る自由を保障するこ
うことです。学びを通じて住民が喜
びを得たり、成長できる機会をどう
やって市内に広げていくのか。これを
追求することが、岐阜市が真っ先にや
るべきことではないでしょうか。プレ
イイベントの企画についても、せめて秋
以降の計画については、市民一人ひと
り、図書館ファン一人ひとりが主人公

となれるようにしてほしいものです。

市全体の図書館行政については、メ
ディアコスモスが建設中ですが、市全
体で図書を借りる人、図書館の登録者
数を内訳で見ると、校区、居住地によっ
て大きな差があることがわかっていま
す。人口における図書館利用登録者の
割合は、少ないところで10%、高い
ところは60%と様々ですが、傾向
として見えるのは図書館の本館、ハー
トフルGの中の分館、そして西部、長
良西、東部、長森の各図書室がある地
域は高い登録率となっています。

これはうなずけることです。わざわざ
バスで遠出をして図書館へ行かなか
てはいけないという人は、登録もしな
いと思われまます。近所に自転車、ま
た徒歩で気軽に寄れる場所にしなけれ
ば、利用は難しい。それをこの数字は
表していると思います。

近くて便利な図書利用を

メディアコスモスがオープンし蔵書
数も増やすのであれば、今後は図書館
が近くにない図書館空白地区に小規模
な図書室、または中央図書館の図書を
気軽に取り寄せられる窓口を整備する

必要があると思います。どこに住んで
いても図書に触れられる機会を確保す
るために、市はどんな計画を持っている
のか。またせめてコミュニティセン
ターのエリアの一つは図書室が必要だ
と思います。

まずは、市内全体に存在する図書館
空白地域をどうするか。具体的な計画
をつくっていく必要があります。教育
長はどうお考えか。

図書コーナーを図書室に

平成24年の3月から試験的に行って
いる北東部コミセンの図書コーナーに
ついて。1年間の総貸出数は2455
冊、利用者は延べ790人と、だんだ
ん増えている傾向にあり大変好評だ
と思います。また今年4月から今月末
まで試験的に始まった予約図書配送業
務についても、「本屋が近くはないので
久しぶりに本を読んだ」という方や「毎
日の楽しみができた」という声も聞こ
えており、こうしたとりくみが北東部
コミセンだけでなく他の地域でもひろ
がることを望むものです。

同時に、もっと本を増やしてほしい
という要望など、まだ課題も多くあり
ます。図書コーナーの図書数は、図書
室に比べてだいぶ少ない。この差を
無くしてほしい、図書室を作ってほし
いというのが利用者の願いです。図書
コーナーの拡大は工事費が伴う。コミ
センの職員の負担も増える。事務量も
人件費もかかると言われますが、岐大
跡地では使われない立体駐車場を3千万

で買って2500万円かけてそれを取り壊すといえます。チョットしか使わない暫定駐車場にも1億円をかける。

こういうことがやられている一方で、本当に図書の実用性を感している人たちの中には、工費がネックになってなかなか岐阜市の図書が市全体に行き渡らないという問題があるわけで、これは本末転倒です。本来、こういうところに市力を注ぐべきではありませんか。

将来的には、図書コーナーではなく図書室が必要だと思います。コミセンでは困難もあるかもしれないが、コミセンのエリアに一つと考えれば他の公共施設や空き店舗の活用もできると思います。教育長のお考えをうかがいたい。

市の答弁は…

教育長：空白地域にサービスが至らないということのないようにできる限り軽減をはかる対策が必要と考える。平成27年に知の拠点として開館する仮称岐阜市中央図書館は、市民の文化度の向上に大きく寄与するもの。市全体にその効果、影響が行き渡るように開館を契機にネットワークの構築をしたい。そのために管理運営計画、サービス計画策定とともに図書館サービスのネットワークの構築。具体的には新しい図書館とJR岐阜駅の分館、公民館、コミセン内の図書館との間に専用の配送体制を確立し中央図書館の豊富な図書を要望に応じて素早く届けることのできるようにしたり、返却のためのアクセスポイントを増やすことなども検討していく。コミセンエリアの図書

コーナーも設置を計画しており、北東部コミセンで試行中。さらに児童が学校図書館で市立図書館の資料を借りることができる仕組みについて城西小で実験中。学校と地域コミュニティを結ぶ一つとして将来的には市立図書館の図書を各学校図書館を通じて地域に貸し出すことのできる窓口として検討もしていきたい。できるところから導入をすすめたい。ネットワークづくりを市の図書館行政の大きな特色にしていきたい。

図書コーナーは、230冊ほどの図書を並べ地域の皆様に利用いただいている。平成26年4月からは予約図書の受付サービスの試行や利用者カードの受付窓口開設を行っている。冊数を増やすことについてはスペースの制約、拡大には工事が伴う。冊数を増やすのがいいのか、冊数はそのまま中央図書館からの貸し出しをスムーズにすることがいいのか、図書の提供方法を含めて今後検討する。借りた本をノートに記載する方法が図書貸し出し利用者のプライバシー上の問題の心配があるという利用者のご意見はご指摘の通り。本の管理上この方法をとらざるをえないと聞いているが、改善のためコミセン職員の負担軽減やより利用しやすい貸し出しの手続きなど早急に検討したい。今後の課題について、事務量が增加することが予測される施設の協力を得つつ問題を洗い出し解決へ関係機関と協議し、地域の皆様により多くの図書を提供できるようにしていきたい。

土砂災害「レッドゾーン」の住民に命・財産を守る『指針』を示せ

中川質問：土砂災害防止法にもとづく土砂災害特別警戒区域の指定について。

「レッドゾーン」とされる区域で、県が基礎調査を行ったうえで建築物破損が生じ住民に著しい被害が生じるおそれのある地域として指定した地域です。市内にもあり、現在、岐阜県による、地権者を対象にした説明会が行われていますが、参加された方からは、一方的に指定されたことによるとまどいや、説明を受けて危険なことは十分に分かったが自分はどうしたらいいか分からない。または行政はどう対応するのか、といった声が出されています。

そこで、市内で発生したがけ崩れの数等、岐阜市の実態や、県が指定した市内のレッドゾーンの地権者、また区域内の公共施設数はどうなっているのか。説明会参加者の中には、どうすればいいのかというまどいがあり、危険な土砂災害の特別警戒区域になつているとお知らせはしたが、それを受けて自分の身をどう守っていったらいいのかについては何の指針も示されていないという問題があるわけで、行政としてするべきこと、できることはどんなことがあるのか。お答えをいたしたいと思えます。

土砂災害がどのように発生するか。傾向的には分かりにくい。雨が降ってから数日後に小石が崩れてきたという事例も

あります。そして「レッドゾーン」に指定されても、いつ避難したらいいのか。雨が降ったら避難なのか、そのタイミングがわかりづらい。どうやって身を守るのかを書いた、住民が活用できるマニュアルが、私は必要だと思います。

市民がそれを見てどう自分を守るか、考えられる指針が必要です。これがないと、ただ危険だと知らせるだけに終わる不十分ではないですか。192カ所の急傾斜地のうち、安全対策が及んでいないのは63カ所にとどまっています。残り129カ所というのはまだ手が打たれていない。その周辺に住む方々は、どうやって自分の財産や身を守っていくのか。これは岐阜市も一緒になって指針をつくって考えていくことだと思ひ、強く要望したいと思ひます。

市の答弁は…

基盤整備部長 平成23年度から県が調査し、25年度から区域指定された。市内で過去10年間の土砂崩れ発生件数は、平成17～26年までの10年間で、19年に1件、20年に4件、23年に1件、25年に4件で本年の2件を合わせ12件。豪雨だけでなく地質、土地の利用形態の違いなどもあり、発生しなかった年もある。災害に強いまちづくりへつとめたい。(了)